

「新たな劇場」の方向性について

【現市民会館の位置づけ】

○設置条例

「芸術文化の振興及び市民福祉の向上を図る」

○施設の役割（「名古屋市文化振興計画 2020」より）

- a 優れた文化芸術公演の鑑賞の場
- b 市民の文化活動・発表の場
- c 地域の賑わいを創出する場

○他施設との連携（「名古屋市文化振興計画 2020」より）

「コミュニティの形成・再生に文化芸術を活用し、文化小劇場を活用した街づくり事業を通じて様々な主体と連携して取り組む」

【本市を取り巻く社会経済情勢と課題】

（「名古屋市総合計画 2023」より抜粋）

- ① 少子化・高齢化に伴う人口構造の変化
- ② 価値観・ライフスタイルの多様化
- ③ リニア中央新幹線開業に伴う変化
- ④ 交流人口の増加

- ア) 劇場不足により、市民に魅力ある実演芸術を鑑賞する機会が提供できていない
- イ) 設備の老朽化等により、市民会館に対する実演家・主催者等の評価が低下している
- ウ) 貸館需要が高く、自主事業を実施する空き日がない
- エ) 舞台設営やリハなど本番公演のない時間は、施設内が閑散としており、閉ざされた雰囲気がある
- オ) 指定管理者制度の弊害により、各劇場間の連携による全市的な管理運営体制が構築できていない
- カ) 集会施設的な利用が多く、文化施設である市民会館のイメージが市民に定着していない
- キ) 市民会館等の受付方法に課題があり、他施設との役割分担を促す仕組みが構築できていない

【現状】

○劇場不足が文化芸術にもたらす様々な弊害

- ・市民の鑑賞機会の損失、実演芸術に対する関心の希薄化
- ・発表の場を確保できず、地元文化団体の活動継続が困難に
- ・市外へのホール需要の流出、名古屋公演等の開催中止

○施設運営上の課題

- ・施設の設置目的と利用実態のかい離、ホール間の連携不足
- ・都市経営・都市魅力の向上と文化芸術の連動性

【課題解決に向けた整備・事業運営の方針】

① 国内外から注目され、市民の誇りと親しみを呼び起こす劇場

- ア) 国内外から多くの人々が訪れたい劇場を実現することで、市民の誇りを呼び起こす
- イ) 劇場不足を解消し、より多くの公演を提供できるように、文化芸術の「場」を増設・拡張（第3のホールの増設）
- ウ) 最新機能/設備を有し、将来の需要変化にも対応可能な拡張性を持つ劇場とすることで、新劇場の魅力を持続的に維持
- エ) 利用者/来場者の快適性向上に不可欠なユニバーサルデザインの導入等
- オ) 多様なニーズに対応可能な設備の規模/機能の拡充

② より多くの人々が劇場に訪れる“きっかけ”となる公演の実施

- ア) 話題性のある公演、ハイレベル/最先端のステージを名古屋でも観られるような劇場運営・誘致を目指すことで、より多くの市民が劇場に通いたいと思える環境をつくり、文化芸術への興味の裾野を拡大
- イ) 市民が日常的に訪れ、居場所となる“まちに開かれた劇場”とするため開放感のある居心地の良い空間を創出
- ウ) 名古屋の多様な文化的背景を念頭に、あらゆる文化芸術を取り入れた魅力的で幅広い事業を展開
- エ) 名フィルなど地元文化団体との協働による名古屋ならではの公演を発信
- オ) 愛知県芸術劇場と役割を分担した事業の実施
- カ) 専門的人材を配置し、主体的で魅力ある事業を展開することで集客力の高い施設運営を実現

③ 市民の文化芸術活動を支え、発表の機会を生み出す環境づくり

- ア) 名古屋市内に多数ある文化施設が有機的に連携し、名古屋市に文化芸術を普及させ、文化力の底上げを実現する取り組み
- イ) 市内の市民文化活動を活性化させ、その集大成を披露する晴れの舞台としての劇場の存在感を醸成
- ウ) 充実した文化芸術活動サポート体制の構築
- エ) オープンスペースを活用した文化芸術が身近に感じられるプログラム等の実施

④ 人と文化芸術が盛んに行き交う、当地域を代表する文化交流拠点

- ア) 地域の文化芸術団体との連携等により、日常的にまちに文化芸術があふれる、賑わいある空間を創出
- イ) あらゆる人や文化芸術を引き寄せる引力を持ったまちづくりの拠点機能
- ウ) 人と文化芸術がホールとまちを垣根なく行き交い、まち全体に文化芸術による賑わいを醸成
- エ) まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させる取り組みのハブとしての役割

【新たな劇場が目指す姿】

〈 ミッション 〉

文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）

〈 位置づけ 〉

■ 「国内外から注目され、市民の誇りと親しみを呼び起こす劇場」となるために

人々が楽しみ、引き込まれ、感化される文化の香り高い名古屋の心つながる象徴拠点

- ①文化と心のランドマーク施設となる
- ②“文化芸術が生きるまち名古屋”の中核拠点となる
- ③実演者、鑑賞者だけでなく市民にとって“名古屋の誇り”となる

〈 役割 〉

1 「より多くの人々が劇場に訪れる“きっかけ”となる公演」を実施するために

ポップからハイカルチャーまで、より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設

- ①人々の興味を誘発する話題性のある演目を誘致して、劇場に訪れるきっかけを創出することで劇場への親近感を醸成する
- ②多様な演目に触れる機会を提供することで、人々が文化芸術への幅広い興味を誘発され、頻りに訪れたい施設となる
- ③専門的人材を配置し、主体的に魅力ある事業を実施する

2 「市民の文化芸術活動を支え、発表の機会を生み出す場」となるために

市民の多様な文化活動を促進する、名古屋発/初文化の中核となる施設

- ①名古屋文化の発展育成の拠点となり、市民とともに名古屋発/初の文化芸術を発信・集積する
- ②市民の様々なジャンルの文化芸術活動に対応し、魅力ある“ハレの場”をつくる

3 「人と文化芸術が盛んに行き交う、当地域を代表する文化交流拠点」となるために

市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点
～ 感動と出会い、まちと繋がる、開かれた劇場 ～

- ①日常的に多様な人々が集い、賑わいを生み出す、新たな交流拠点となる
- ②“いつでも、誰でも、何かを経験できる”魅力的な空間や機会を提供する
- ③居心地が良く、一日中過ごしたくなる、市民の快適な居場所となる

